

KN グローカルリサーチレポート

2018年9月
No.29



9月1日は「防災の日」。『台風、高潮、津波、地震等の災害についての認識を深め、これに対処する心構えを準備する』日で、2日(日)には、各地域の自治会などで自主防災隊が中心となって、訓練が行われました。

遠州灘の防潮堤=17.5Km 2020年完成 着工率9割 完成率5.5割

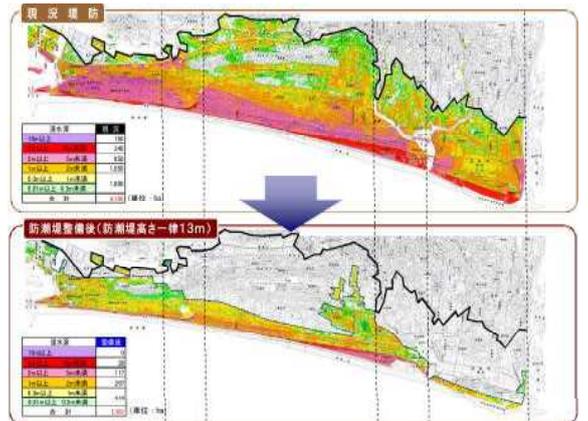
2012年から始まった、天竜川河口から浜名湖・今切口までの17.5Kmの防潮堤の工事も、2020年の3月の完成を目指し、約9.7Kmの区間で標高13mの築堤が完了した。現在、天竜川河口の一部の未着工を残し、舞阪や中田島で工事が進んでいる。



完成した防潮堤 西部清掃工場付近

【防潮堤 標高13~15mの効果】

もともと、遠州灘には100~150年に1回の割合で発生するとされる「東海地震」の津波を防ぐ高さ約9mの『農林堤』があった。しかし、東日本地震クラスの津波を想定すると、上図のように浸水区域が4,190haと甚大な被害が予想されることから、高さ13mの防潮堤を整備し、宅地の浸水面積を7割減らし、津波浸水深2m以上となる面積を97%減らすこととした(下図)。(津波浸水深2m以下では、家が流されることは無く、2階に避難すれば助かる)



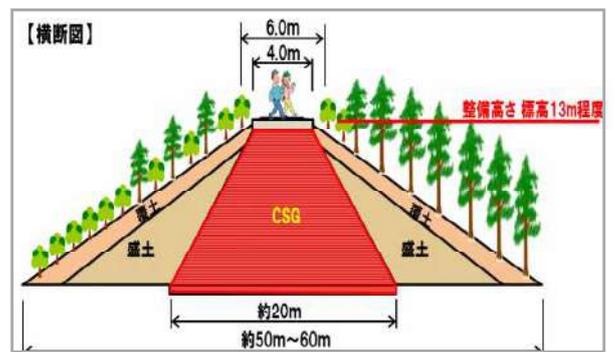
浜松市の資料より

また、今年3月に、一部の区域の予想津波高に対応するため、防潮堤の高さを2mかさ上げして、その区域を15mにする事が決まった。

【防潮堤の構造=CSG工法+植栽】

防潮堤には、天竜区の阿蔵山からの土砂に加え、現在は北区引佐町柘窪の土砂も使われている。防潮堤は、それらの土砂にセメントを加えて固めたCSG (Cemented Sand and Gravel) という台形ダムを構築する工法で施行されており、固定地盤から何層も積み重ね、台形型のCSGを作り、両側を盛土し、クロマツやマサキなどを植えている。

これにより、仮に津波がこの防潮堤を越流しても、砂の吸い出しを受けることもなく、崩壊しにくい。



静岡県ホームページより

【 防潮堤の施工の様子 2018年8月4日の見学会に参加して撮影 】



CSG プラント。自動化されており、2人で監視している



既存の堤防を、固定地盤まで掘り下げている



掘り下げた底辺から、約30cm程度の厚さでCSGを何層も積み重ねていく。
タンクローリーからは、層のつなぎとなるコンクリートペーストを注いでいる。



運転席にセンサーが取り付けられた転圧ローラー車で固まり状況を画面で見ながら、約10回、締め固める。

【 市民からの寄附 】

防潮堤や津波避難施設などの整備を進めるための「津波対策事業基金」には、8月20日現在、市民等から5,888件、1,347,348,834円の寄附が集まっている。



寄付者名簿↑

【お役立ち セミナー】

○インドネシア経営の課題解決ヒント

- ・日時 平成30年9月20日(木)14:00~16:40 無料
- ・会場 浜松商工会議所 10階
- ・主催 公益社団法人 静岡県国際経済振興会(SIBA)



○海外赴任セミナー（タイ編）

- ・日時 平成30年10月18日(木)13:30~16:30 無料
- ・会場 あいち国際ビジネス支援センター（名古屋市中村区名駅4-4-38）
- ・主催 一般社団法人 海外事情支援センター(OBAC)



執筆 = 西川公一郎：元浜松市議会議員、防災士
(公社)子どもの発達科学研究所 事務局長
浜松市中区 在住 ko-ichi@24kawa.org